

ゼフィルスとの出会いは、1958年中学時代に登った高知県大豊郡の梶が森 1400mの山頂部。南国高知ではミドリシジミなどのゼフィルスには相当標高が高い山奥にまででかけないと出会えない。それでも梶が森で出会えるゼフィルスはミドリシジミ、オオミドリシジミに限られ、山頂部で上昇気流にのって吹き上がってきたオオミドリシジミを捕らえたのがゼフィルス初体験である。

その後、家族旅行で訪れた霧ヶ峰高原の車山山頂部で捕獲したオス個体を標本として残しているが、角度をかえてみれば約50年経過した今でも緑の輝きが見られるものの、なぜここまでひどい展翅をしたのかと嘆かわしくなる標本化のせいで撮影記録ではその輝きを示せない。



June 18, 1971 兵庫県佐用町

ヒロオビミドリシジミとの出会いを求めて初めてゼフィルス採集を目的として JR 加古川駅から始発列車で上郡へと遠征。どこに採集ポイントがあるのかも知らない遠征だったが、幸いにも佐用町までの路線バス車内でヒロオビのメス個体捕獲を目指す伊沢格さんご夫妻と知り合いとなり、途中の土手斜面でジャコウアゲハの幼虫採取の案内も受けながら現地のナラガシワが多い雑木林に入る。初めてのゼフィルス採集でありながら幸いにもヒロオビのメスを見つけることができ伊沢さんに提供し、オオミドリシジミのオス個体、ウラジロミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミなどをゲットしたが、その後本種との出会いはなく、クロヒカゲモドキも発生していたこの地は、その後シイタケの楢木としてナラガシワの多くが伐採されるなど、2010年以降チョウを楽しめる豊かな自然は残っていない。



最近、加古川の里山・ギフチョウ・ネットで簡易カラー図鑑「加古川のチョウ」を編纂するにあたって、加古川市の近郊でも1994-2003年にオオミドリシジミのオス個体や産卵が観察できたという記録を確認できたが、その後は本種の発生がみられていない。